

一般会計等 貸借対照表

(令和02年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	97,942,449,439	固定負債	18,937,025,924
有形固定資産	94,125,975,648	地方債	18,237,716,924
事業用資産	54,349,138,652	長期未払金	-
土地	28,127,747,769	退職手当引当金	699,309,000
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	42,832,868,056	その他	-
建物減価償却累計額	△ 19,757,791,487	流動負債	706,120,277
工作物	3,314,806,059	1年内償還予定地方債	179,779,590
工作物減価償却累計額	△ 2,149,661,257	未払金	-
船舶	7,820,796	未払費用	-
船舶減価償却累計額	△ 5,481,486	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	207,291,695
航空機	-	預り金	319,048,992
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	19,643,146,201
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	1,978,830,202	固定資産等形成分	99,449,255,196
インフラ資産	38,075,060,827	余剰分(不足分)	△ 18,580,539,944
土地	8,815,218,931		
建物	542,638,715		
建物減価償却累計額	△ 260,713,875		
工作物	67,749,230,184		
工作物減価償却累計額	△ 38,932,659,716		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	161,346,588		
物品	6,256,401,343		
物品減価償却累計額	△ 4,554,625,174		
無形固定資産	42,052,481		
ソフトウェア	10,601,900		
その他	31,450,581		
投資その他の資産	3,774,421,310		
投資及び出資金	357,699,360		
有価証券	83,694,889		
出資金	274,004,471		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	361,544,243		
長期貸付金	18,892,600		
基金	3,049,513,738		
減債基金	-		
その他	3,049,513,738		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 13,228,631		
流動資産	2,569,412,014		
現金預金	925,996,592		
未収金	145,099,406		
短期貸付金	-		
基金	1,506,805,757		
財政調整基金	1,199,592,223		
減債基金	307,213,534		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 8,489,741		
資産合計	100,511,861,453	純資産合計	80,868,715,252
		負債及び純資産合計	100,511,861,453

【様式第2号】

一般会計等 行政コスト計算書

自 平成31年4月1日
至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	金額
経常費用	24,753,546,161
業務費用	9,988,016,489
人件費	3,465,605,475
職員給与費	2,954,277,275
賞与等引当金繰入額	207,291,695
退職手当引当金繰入額	—
その他	304,036,505
物件費等	6,246,839,352
物件費	3,027,340,340
維持補修費	117,156,510
減価償却費	3,102,342,502
その他	—
その他の業務費用	275,571,662
支払利息	155,302,338
徴収不能引当金繰入額	8,213,989
その他	112,055,335
移転費用	14,765,529,672
補助金等	5,847,104,891
社会保障給付	6,832,419,387
他会計への繰出金	2,084,478,994
その他	1,526,400
経常収益	681,923,715
使用料及び手数料	229,112,381
その他	452,811,334
純経常行政コスト	24,071,622,446
臨時損失	87,503,458
災害復旧事業費	5,715,600
資産除売却損	40,672,830
投資損失引当金繰入額	—
損失補償等引当金繰入額	—
その他	41,115,028
臨時利益	326,835,990
資産売却益	326,715,990
その他	120,000
純行政コスト	23,832,289,914

一般会計等 純資産変動計算書

自 平成31年4月1日

至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	79,275,107,642	97,769,483,099	△ 18,494,375,457
純行政コスト(△)	△ 23,832,289,914		△ 23,832,289,914
財源	26,313,978,718		26,313,978,718
税収等	15,143,727,274		15,143,727,274
国県等補助金	11,170,251,444		11,170,251,444
本年度差額	2,481,688,804		2,481,688,804
固定資産等の変動(内部変動)		2,569,868,360	△ 2,569,868,360
有形固定資産等の増加		3,350,269,233	△ 3,350,269,233
有形固定資産等の減少		△ 3,142,304,843	3,142,304,843
貸付金・基金等の増加		2,925,092,024	△ 2,925,092,024
貸付金・基金等の減少		△ 563,188,054	563,188,054
資産評価差額	△ 4,778,478	△ 4,778,478	
無償所管換等	△ 873,018,785	△ 873,018,785	
その他	△ 10,283,931	△ 12,299,000	2,015,069
本年度純資産変動額	1,593,607,610	1,679,772,097	△ 86,164,487
本年度末純資産残高	80,868,715,252	99,449,255,196	△ 18,580,539,944

一般会計等 資金収支計算書

自 平成31年4月1日

至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	21,684,385,751
業務費用支出	6,918,856,079
人件費支出	3,466,328,726
物件費等支出	3,185,169,680
支払利息支出	155,302,338
その他の支出	112,055,335
移転費用支出	14,765,529,672
補助金等支出	5,847,104,891
社会保障給付支出	6,832,419,387
他会計への繰出支出	2,084,478,994
その他の支出	1,526,400
業務収入	23,683,689,936
税収等収入	15,129,172,284
国県等補助金収入	8,030,165,444
使用料及び手数料収入	239,555,977
その他の収入	284,796,231
臨時支出	5,715,600
災害復旧事業費支出	5,715,600
その他の支出	-
臨時収入	1,413,324,740
業務活動収支	3,406,913,325
【投資活動収支】	
投資活動支出	6,043,344,041
公共施設等整備費支出	3,350,269,233
基金積立金支出	2,688,754,808
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	4,320,000
その他の支出	-
投資活動収入	2,475,165,487
国県等補助金収入	1,726,761,260
基金取崩収入	418,148,236
貸付金元金回収収入	3,540,000
資産売却収入	326,715,991
その他の収入	-
投資活動収支	△ 3,568,178,554
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,874,960,915
地方債償還支出	1,874,960,915
その他の支出	-
財務活動収入	1,961,502,000
地方債発行収入	1,961,502,000
その他の収入	-
財務活動収支	86,541,085
本年度資金収支額	△ 74,724,144
前年度末資金残高	681,671,744
本年度末資金残高	606,947,600
前年度末歳計外現金残高	283,809,667
本年度歳計外現金増減額	35,239,325
本年度末歳計外現金残高	319,048,992
本年度末現金預金残高	925,996,592

全体貸借対照表

(令和02年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	122,526,924,376	固定負債	37,160,734,653
有形固定資産	116,367,322,106	地方債等	18,420,307,905
事業用資産	54,588,651,541	長期未払金	347,088,000
土地	28,303,398,238	退職手当引当金	757,550,237
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	42,867,096,886	その他	17,635,788,511
建物減価償却累計額	△ 19,765,645,183	流動負債	1,484,997,579
工作物	3,357,242,137	1年内償還予定地方債等	217,500,933
工作物減価償却累計額	△ 2,154,610,049	未払金	257,916,744
船舶	7,820,796	未払費用	-
船舶減価償却累計額	△ 5,481,486	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	236,112,780
航空機	-	預り金	358,766,628
航空機減価償却累計額	-	その他	414,700,494
その他	-	負債合計	38,645,732,232
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	1,978,830,202	固定資産等形成分	124,033,730,133
インフラ資産	58,465,247,843	余剰分(不足分)	△ 35,399,858,359
土地	10,220,378,060	他団体出資等分	-
建物	1,627,313,824		
建物減価償却累計額	△ 470,879,664		
工作物	91,109,431,587		
工作物減価償却累計額	△ 44,368,824,705		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	347,828,741		
物品	9,335,752,642		
物品減価償却累計額	△ 6,022,329,920		
無形固定資産	45,416,959		
ソフトウェア	13,697,678		
その他	31,719,281		
投資その他の資産	6,114,185,311		
投資及び出資金	357,930,360		
有価証券	83,694,889		
出資金	274,235,471		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	625,526,495		
長期貸付金	1,590,147,400		
基金	3,568,396,707		
減債基金	-		
その他	3,568,396,707		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 27,815,651		
流動資産	4,752,679,630		
現金預金	2,643,646,240		
未収金	456,931,079		
短期貸付金	-		
基金	1,506,805,757		
財政調整基金	1,199,592,223		
減債基金	307,213,534		
棚卸資産	8,091,683		
その他	153,348,000		
徴収不能引当金	△ 16,143,129		
繰延資産	-		
資産合計	127,279,604,006	純資産合計	88,633,871,774
		負債及び純資産合計	127,279,604,006

全体行政コスト計算書

自 平成31年4月1日
至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	金額
経常費用	37,855,195,636
業務費用	13,105,929,259
人件費	3,920,397,079
職員給与費	3,241,875,271
賞与等引当金繰入額	232,878,780
退職手当引当金繰入額	—
その他	445,643,028
物件費等	8,637,471,768
物件費	4,273,600,886
維持補修費	152,468,902
減価償却費	4,086,364,332
その他	125,037,648
その他の業務費用	548,060,412
支払利息	246,141,500
徴収不能引当金繰入額	25,075,314
その他	276,843,598
移転費用	24,749,266,377
補助金等	17,911,203,670
社会保障給付	6,835,908,187
その他	2,154,520
経常収益	2,430,898,854
使用料及び手数料	1,899,280,948
その他	531,617,906
純経常行政コスト	35,424,296,782
臨時損失	114,092,058
災害復旧事業費	5,715,600
資産除売却損	49,459,731
投資損失引当金繰入額	—
損失補償等引当金繰入額	—
その他	58,916,727
臨時利益	335,257,605
資産売却益	326,715,990
その他	8,541,615
純行政コスト	35,203,131,235

全体純資産変動計算書

自 平成31年4月1日

至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	85,989,448,424	105,568,679,820	△ 19,579,231,396	—
純行政コスト(△)	△ 35,203,131,235		△ 35,203,131,235	
財源	37,818,507,991		37,818,507,991	—
収等	19,026,052,947		19,026,052,947	
国県等補助金	18,792,455,044		18,792,455,044	
本年度差額	2,615,376,756		2,615,376,756	—
固定資産等の変動(内部変動)		19,349,105,062	△ 19,349,105,062	
有形固定資産等の増加		21,130,112,465	△ 21,130,112,465	
有形固定資産等の減少		△ 4,135,113,574	4,135,113,574	
貸付金・基金等の増加		3,209,687,537	△ 3,209,687,537	
貸付金・基金等の減少		△ 855,581,366	855,581,366	
資産評価差額	73,032,847	73,032,847		
無償所管換等	△ 866,977,271	△ 866,977,271		
他団体出資等分の増加	—			—
他団体出資等分の減少	—			—
その他	822,991,018	△ 90,110,325	913,101,343	
本年度純資産変動額	2,644,423,350	18,465,050,313	△ 15,820,626,963	—
本年度末純資産残高	88,633,871,774	124,033,730,133	△ 35,399,858,359	—

全体資金収支計算書

自 平成31年4月1日
至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	33,767,480,979
業務費用支出	9,018,214,602
人件費支出	3,919,550,054
物件費等支出	4,592,772,200
支払利息支出	246,141,500
その他の支出	259,750,848
移転費用支出	24,749,266,377
補助金等支出	17,911,203,670
社会保障給付支出	6,835,908,187
その他の支出	2,154,520
業務収入	36,382,219,398
税収等収入	18,401,946,110
国県等補助金収入	15,540,714,348
使用料及び手数料収入	1,972,016,222
その他の収入	467,542,718
臨時支出	23,517,299
災害復旧事業費支出	5,715,600
その他の支出	17,801,699
臨時収入	1,459,574,660
業務活動収支	4,050,795,780
【投資活動収支】	
投資活動支出	6,844,232,271
公共施設等整備費支出	3,977,084,359
基金積立金支出	2,731,847,912
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	135,300,000
その他の支出	-
投資活動収入	3,037,394,925
国県等補助金収入	2,079,166,016
基金取崩収入	459,209,236
貸付金元金回収収入	170,465,500
資産売却収入	326,715,991
その他の収入	1,838,182
投資活動収支	△ 3,806,837,346
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,716,614,198
地方債等償還支出	1,911,537,041
その他の支出	805,077,157
財務活動収入	2,516,202,000
地方債等発行収入	2,516,202,000
その他の収入	-
財務活動収支	△ 200,412,198
本年度資金収支額	43,546,236
前年度末資金残高	2,281,051,012
本年度末資金残高	2,324,597,248
前年度末歳計外現金残高	283,809,667
本年度歳計外現金増減額	35,239,325
本年度末歳計外現金残高	319,048,992
本年度末現金預金残高	2,643,646,240

連結貸借対照表

(令和02年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	129,557,734,240	固定負債	40,003,548,524
有形固定資産	119,329,292,599	地方債等	19,221,512,962
事業用資産	57,539,460,640	長期未払金	352,459,224
土地	28,730,302,090	退職手当引当金	2,786,911,366
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	53,220,173,926	その他	17,642,664,972
建物減価償却累計額	△ 27,779,892,004	流動負債	1,681,985,285
工作物	3,568,577,169	1年内償還予定地方債等	321,137,348
工作物減価償却累計額	△ 2,218,852,010	未払金	319,863,349
船舶	7,820,796	未払費用	7,696,842
船舶減価償却累計額	△ 5,481,486	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	244,805,764
航空機	-	預り金	371,328,734
航空機減価償却累計額	-	その他	417,153,248
その他	39,955,886	負債合計	41,685,533,809
その他減価償却累計額	△ 3,236,427	【純資産の部】	
建設仮勘定	1,980,092,700	固定資産等形成分	131,152,490,443
インフラ資産	58,465,247,843	余剰分(不足分)	△ 36,025,433,616
土地	10,220,378,060	他団体出資等分	1,000,000
建物	1,627,313,824		
建物減価償却累計額	△ 470,879,664		
工作物	91,109,431,587		
工作物減価償却累計額	△ 44,368,824,705		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	347,828,741		
物品	9,409,832,268		
物品減価償却累計額	△ 6,085,248,152		
無形固定資産	212,585,197		
ソフトウェア	24,229,392		
その他	188,355,805		
投資その他の資産	10,015,856,444		
投資及び出資金	282,406,943		
有価証券	83,709,472		
出資金	198,697,471		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	628,906,470		
長期貸付金	1,590,568,576		
基金	5,930,899,908		
減債基金	-		
その他	5,930,899,908		
その他	1,611,000,000		
徴収不能引当金	△ 27,925,453		
流動資産	7,255,856,396		
現金預金	4,915,004,603		
未収金	468,282,883		
短期貸付金	-		
基金	1,594,756,203		
財政調整基金	1,287,542,669		
減債基金	307,213,534		
棚卸資産	140,920,658		
その他	153,348,000		
徴収不能引当金	△ 16,455,951		
繰延資産	-		
資産合計	136,813,590,636	純資産合計	95,128,056,827
		負債及び純資産合計	136,813,590,636

連結行政コスト計算書

自 平成31年4月1日
至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	金額
経常費用	42,515,655,652
業務費用	14,698,425,556
人件費	4,655,251,456
職員給与費	3,674,280,634
賞与等引当金繰入額	238,447,787
退職手当引当金繰入額	256,608,509
その他	485,914,526
物件費等	9,387,030,816
物件費	4,667,511,233
維持補修費	231,473,275
減価償却費	4,278,566,431
その他	209,479,877
その他の業務費用	656,143,284
支払利息	250,991,309
徴収不能引当金繰入額	25,497,938
その他	379,654,037
移転費用	27,817,230,096
補助金等	20,970,346,641
社会保障給付	6,835,944,148
その他	10,939,307
経常収益	3,198,977,867
使用料及び手数料	1,999,378,746
その他	1,199,599,121
純経常行政コスト	39,316,677,785
臨時損失	2,141,399,403
災害復旧事業費	5,715,600
資産除売却損	49,865,932
投資損失引当金繰入額	—
損失補償等引当金繰入額	—
その他	2,085,817,871
臨時利益	62,175,668
資産売却益	48,972,377
その他	13,203,291
純行政コスト	41,395,901,520

連結純資産変動計算書

自 平成31年4月1日
至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	94,385,444,703	115,881,448,382	△ 21,497,003,679	1,000,000
純行政コスト(△)	△ 41,395,901,520		△ 41,395,901,520	
財源	42,095,090,618		42,095,090,618	-
税金等	21,243,429,275		21,243,429,275	
国県等補助金	20,851,661,343		20,851,661,343	
本年度差額	699,189,098		699,189,098	-
固定資産等の変動(内部変動)		19,548,608,390	△ 19,548,608,390	
有形固定資産等の増加		21,293,213,271	△ 21,293,213,271	
有形固定資産等の減少		△ 4,315,468,914	4,315,468,914	
貸付金・基金等の増加		3,547,083,282	△ 3,547,083,282	
貸付金・基金等の減少		△ 976,219,249	976,219,249	
資産評価差額	73,032,847	73,032,847		
無償所管換等	△ 895,906,536	△ 895,906,536		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
比例連結割合変更に伴う差額	25,978,573	141,597,414	△ 115,618,841	-
その他	840,318,142	△ 3,596,290,054	4,436,608,196	
本年度純資産変動額	742,612,124	15,271,042,061	△ 14,528,429,937	-
本年度末純資産残高	95,128,056,827	131,152,490,443	△ 36,025,433,616	1,000,000

連結資金収支計算書

自 平成31年4月1日

至 令和02年3月31日

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	37,892,256,817
業務費用支出	10,075,026,721
人件費支出	4,380,501,380
物件費等支出	5,081,813,576
支払利息支出	250,991,309
その他の支出	361,720,456
移転費用支出	27,817,230,096
補助金等支出	20,978,082,218
社会保障給付支出	6,835,944,148
その他の支出	3,203,730
業務収入	41,215,429,726
税収等収入	20,590,201,838
国県等補助金収入	17,422,107,375
使用料及び手数料収入	2,072,122,285
その他の収入	1,130,998,228
臨時支出	2,023,517,299
災害復旧事業費支出	5,715,600
その他の支出	2,017,801,699
臨時収入	1,459,574,660
業務活動収支	2,759,230,270
【投資活動収支】	
投資活動支出	9,012,900,426
公共施設等整備費支出	4,204,977,927
基金積立金支出	3,072,353,807
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	135,300,000
その他の支出	1,600,268,692
投資活動収入	8,046,400,840
国県等補助金収入	2,186,610,151
基金取崩収入	580,306,888
貸付金元金回収収入	170,465,500
資産売却収入	4,603,291
その他の収入	5,104,415,010
投資活動収支	△ 966,499,586
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,801,555,049
地方債等償還支出	1,990,341,343
その他の支出	811,213,706
財務活動収入	2,582,527,996
地方債等発行収入	2,554,320,504
その他の収入	28,207,492
財務活動収支	△ 219,027,053
本年度資金収支額	1,573,703,631
前年度末資金残高	3,036,024,791
比例連結割合変更に伴う差額	△ 14,279,328
本年度末資金残高	4,595,449,094
前年度末歳計外現金残高	284,592,910
本年度歳計外現金増減額	34,962,599
本年度末歳計外現金残高	319,555,509
本年度末現金預金残高	4,915,004,603

一般会計等財務書類 注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ 昭和60年度以降に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が判明していないもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

② 無形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 有価証券

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・財務書類作成基準日における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・取得原価

② 出資金

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・財務書類作成基準日における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状況の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

なし

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）・・・・・・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下の通りです。

建物 14年～50年

工作物 10年～80年

物品 2年～15年

一般会計等財務書類 注記

② 無形固定資産（リース資産を除く）・・・・・・・・・・定額法

（ソフトウェアについては、見込利用期間（５年）に基づく定額法によっています。）

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が１年以内のリース取引及びリース契約１件あたりのリース料総額が３００万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

・・・・・・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

（５）引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

なし

② 徴収不能引当金

未収金ならびに徴収不能引当金については、過去５年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込み額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうちの持分相当額を加算した額を控除した額を計上しています。

④ 損失補償等引当金

なし

⑤ 賞与等引当金

翌年度の６月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

（６）リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、１件当たりの契約額が３００万円以上であり、かつ契約終了後に所有権が移転する場合に限り、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

（７）資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（糸満市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受け払いを含んでいます。

一般会計等財務書類 注記

(8) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 出納整理期間

当会計年度に係る出納整理期間（令和2年4月1日～5月31日）の現金出納に関する取引を当会計年度の取引に含めています。

② 消費税及び地方消費税の会計処理

税込方式によっています。

③ 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。ソフトウェアについても、原則として物品の取扱いに準じています。

④ 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、原則として金額が60万円未満であるときに、修繕費として処理しています。ただし、実施した工事の性質により、原状回復と判断された工事については金額によらず修繕費として処理しています。

2. 重要な会計方針の変更等

(1) 会計方針の変更

なし

(2) 表示方法の変更

なし

(3) 資金収支計算書における資金の範囲の変更

なし

3. 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

なし

(2) 組織・機構の大幅な変更

なし

(3) 地方財政制度の大幅な改正

なし

一般会計等財務書類 注記

(4) 重大な災害等の発生

なし

4. 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

なし

(2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの

なし

(3) その他主要な偶発債務

なし

5. 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

①一般会計等財務書類の対象範囲は次の通りです。

一般会計

人材育成事業特別会計

②地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受け払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

③表示単位未満の金額は四捨五入することとしておりますが、四捨五入により合計金額が一致しない場合があります。

④地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく健全化判断比率の状況

実質赤字比率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・△ 3.93 %

連結実質赤字比率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・△ 16.90 %

実質公債費比率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8.20 %

将来負担比率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33.30 %

⑤利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

なし

⑥過年度修正等に関する事項

なし

(2) 貸借対照表に係る事項

①売却可能資産の範囲及び内訳

ア 範囲

個別の固定資産について、売却可能性を検討した上で決定しています。

一般会計等財務書類 注記

イ 内訳

事業用資産	0千円 (0千円)
土地	0千円 (0千円)
立木竹	0千円 (0千円)
建物	0千円 (0千円)
工作物	0千円 (0千円)
船舶	0千円 (0千円)
浮標等	0千円 (0千円)
航空機	0千円 (0千円)
その他	0千円 (0千円)
インフラ資産	0千円 (0千円)
土地	0千円 (0千円)
建物	0千円 (0千円)
工作物	0千円 (0千円)
その他	0千円 (0千円)
物品	0千円 (0千円)

令和2年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

また、括弧内の金額は貸借対照表における簿価を記載しています。

②地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく将来負担比率の算定要素

標準財政規模・・・・	12,510,646 千円
元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額・・・・	1,367,296 千円
将来負担額・・・・	22,496,581 千円
充当可能基金額・・・・	4,553,406 千円
特定財源見込額・・・・	502,306 千円
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入額・・・・	13,722,786 千円

(3) 行政コスト計算書に係る事項

なし

一般会計等財務書類 注記

(4) 純資産変動計算書に係る事項

①固定資産形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

②余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(5) 資金収支計算書に係る事項

①基礎的財政収支

2,264,644 千円

②既存の決算情報との関連性

	収入（歳入）	支出（歳出）
歳入歳出決算書	29,746,092千円	29,144,769千円
財務書類の対象となる会計の範囲に伴う差額	19,262千円	13,637千円
繰越金のうち前年度歳入歳出差引額に伴う差額	△681,672千円	0千円
繰越金のうち歳計剰余金処分による基金積立に伴う差額	450,000千円	450,000千円
翌年度繰上げ充用金に伴う差額	0千円	0千円
相殺消去に伴う差額	0千円	0千円
資金収支計算書	29,533,682千円	29,608,406千円

地方自治法第233条第1項に基づく歳入歳出決算書は「一般会計」を対象範囲としているのに対し、資金収支計算書は「一般会計等」を対象としているため、歳入歳出決算書と資金収支計算書は一部の特別会計の分だけ相違します。

歳入歳出決算書では繰越金を収入として計上しますが、公会計では計上しないため、その分だけ相違します。

③資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書

業務活動収支	3,406,913千円
投資活動収入の国県等補助金収入	1,726,761千円
未収債権、未払債務等の増加（減少）	379,821千円
減価償却費	△3,102,343千円
賞与等引当金繰入額	△207,292千円
退職手当引当金繰入額	0千円
徴収不能引当金繰入額	△8,214千円
資産除売却益（損）	286,043千円
純資産変動計算書の本年度差額	2,481,689千円

④重要な非資金取引

なし

全体財務書類 注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ 昭和60年度以降に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が判明していないもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

法適用会計については、各会計の基準に従って作成しています。

② 無形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

法適用会計については、各会計の基準に従って作成しています。

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 有価証券

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・財務書類作成基準日における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・取得原価

② 出資金

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・財務書類作成基準日における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状況の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

公営企業法の評価基準及び評価方法に基づき評価しています

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）・・・・・・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下の通りです。

建物 14年～50年

工作物 10年～80年

物品 2年～15年

法適用会計については、各会計の基準に従って作成しています。

② 無形固定資産（リース資産を除く）・・・・・・・・・・定額法

（ソフトウェアについては、見込利用期間（５年）に基づく定額法によっています。）
法適用会計については、各会計の基準に従って作成しています。

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が１年以内のリース取引及びリース契約１件あたりのリース料総額が３００万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

・・・・・・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法
法適用会計については、各会計の基準に従って作成しています。

（５）引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

なし

② 徴収不能引当金

未収金ならびに徴収不能引当金については、過去５年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込み額を計上しています。

③退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうちの持分相当額を加算した額を控除した額を計上しています。

④損失補償等引当金

なし

⑤賞与等引当金

翌年度の６月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

（６）リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、１件当たりの契約額が３００万円以上であり、かつ契約終了後に所有権が移転する場合に限り、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

（７）資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（糸満市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受け払いを含んでいます。

全体財務書類 注記

(8) 消費税及び地方消費税の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、一部の会計については、税抜方式によっています。

2. 重要な会計方針の変更等

(1) 会計方針の変更

なし

(2) 表示方法の変更

なし

(3) 資金収支計算書における資金の範囲の変更

なし

3. 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

なし

(2) 組織・機構の大幅な変更

なし

(3) 地方財政制度の大幅な改正

なし

(4) 重大な災害等の発生

なし

4. 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

なし

(2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの

なし

(3) その他主要な偶発債務

なし

5. 追加情報

(1) 全体財務書類の対象範囲

全体財務書類の対象範囲については、一般会計等財務書類の対象範囲に下記会計を含みます。

全体財務書類 注記

団体名	連結方法	比例連結割合
水道事業会計	全部連結	-
下水道事業会計	全部連結	-
糸満漁港ふれあい公園事業特別会計	全部連結	-
土地区画整理事業特別会計	全部連結	-
国民健康保険事業特別会計	全部連結	-
介護保険事業特別会計	全部連結	-
後期高齢者医療特別会計	全部連結	-

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受け払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

(3) 表示単位未満の取扱い

表示単位未満の金額は四捨五入することとしておりますが、四捨五入により合計金額が一致しない場合があります。

(4) 売却可能資産の範囲及び内訳

ア 範囲

個別の固定資産について、売却可能性を検討した上で決定しています。

イ 内訳

事業用資産	0千円 (0千円)
土地	0千円 (0千円)
立木竹	0千円 (0千円)
建物	0千円 (0千円)
工作物	0千円 (0千円)
船舶	0千円 (0千円)
浮標等	0千円 (0千円)
航空機	0千円 (0千円)
その他	0千円 (0千円)
インフラ資産	0千円 (0千円)
土地	0千円 (0千円)
建物	0千円 (0千円)
工作物	0千円 (0千円)
その他	0千円 (0千円)
物品	0千円 (0千円)

令和2年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

また、括弧内の金額は貸借対照表における簿価を記載しています。

連結財務書類 注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ 昭和60年度以降に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が判明していないもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

法適用会計、地方三公社、第三セクター等については、各会計・団体の基準に従って作成しています。

② 無形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

法適用会計、地方三公社、第三セクター等については、各会計・団体の基準に従って作成しています。

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 有価証券

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・財務書類作成基準日における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・取得原価

② 出資金

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・財務書類作成基準日における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状況の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

各会計基準の評価基準及び評価方法に基づき評価しています。

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）・・・・・・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下の通りです。

建物 14年～50年

工作物 10年～80年

物品 2年～15年

法適用会計、地方三公社、第三セクター等については、各会計・団体の基準に従って作成しています。

連結財務書類 注記

② 無形固定資産（リース資産を除く）・・・・・・・・・・定額法

（ソフトウェアについては、見込利用期間（５年）に基づく定額法によっています。）

法適用会計、地方三公社、第三セクター等については、各会計・団体の基準に従って作成しています。

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が１年以内のリース取引及びリース契約１件あたりのリース料総額が３００万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

・・・・・・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

法適用会計、地方三公社、第三セクター等については、各会計・団体の基準に従って作成しています。

（５）引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

未収金ならびに徴収不能引当金については、過去５年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込み額を計上しています。

② 退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうちの持分相当額を加算した額を控除した額を計上しています。

③ 損失補償等引当金

なし

④ 賞与等引当金

翌年度の６月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

（６）リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、１件当たりの契約額が３００万円以上であり、かつ契約終了後に所有権が移転する場合に限り、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

（７）資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（容易に換金可能であり、かつ、価値変動が僅少なもので、流動性の高い投資をいいます。ただし、一般会計等においては、糸満市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受け払いを含んでいます。

（８）消費税及び地方消費税の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、一部の会計については、税抜方式によっています。

連結財務書類 注記

2. 重要な会計方針の変更等

(1) 会計方針の変更

なし

(2) 表示方法の変更

なし

(3) 資金収支計算書における資金の範囲の変更

なし

3. 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

なし

(2) 組織・機構の大幅な変更

なし

(3) 地方財政制度の大幅な改正

なし

(4) 重大な災害等の発生

なし

4. 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

なし

(2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの

なし

(3) その他主要な偶発債務

なし

5. 追加情報

(1) 連結財務書類の対象範囲

連結財務書類の対象範囲については、全体財務書類の対象範囲に下記の団体（会計）を含みます。

団体名	連結方法	比例連結割合
南部広域市町村圏事務組合（一般会計）	比例連結	7.65%
南部広域市町村圏事務組合（南斎場）	比例連結	30.50%
沖縄県後期高齢者医療広域連合（一般会計）	比例連結	3.83%
沖縄県後期高齢者医療広域連合（特別会計）	比例連結	3.22%
沖縄県市町村総合事務組合	比例連結	5.04%
沖縄県市町村自治会館管理組合	比例連結	4.17%
南部広域行政組合（一般会計）	比例連結	16.97%
南部広域行政組合（糸豊環境衛生事業特別会計）	比例連結	50.50%
糸満市土地開発公社	全部連結	-
糸満市社会福祉協議会	全部連結	-

連結の方法は次のとおりです。

- ①一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結対象としています。
- ②地方三公社は、全て全部連結の対象としています
- ③第三セクター等は、出資割合が50%を超える団体（出資割合等が50%以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体は含みます。）は、全部連結の対象としています。

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受け払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

(3) 表示単位未満の取扱い

表示単位未満の金額は四捨五入することとしておりますが、四捨五入により合計金額が一致しない場合があります。

(4) 売却可能資産の範囲及び内訳

ア 範囲

個別の固定資産について、売却可能性を検討した上で決定しています。

イ 内訳

事業用資産	0千円 (0千円)
土地	0千円 (0千円)
立木竹	0千円 (0千円)
建物	0千円 (0千円)
工作物	0千円 (0千円)
船舶	0千円 (0千円)
浮標等	0千円 (0千円)
航空機	0千円 (0千円)
その他	0千円 (0千円)
インフラ資産	0千円 (0千円)
土地	0千円 (0千円)
建物	0千円 (0千円)
工作物	0千円 (0千円)
その他	0千円 (0千円)
物品	0千円 (0千円)

令和2年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

また、括弧内の金額は貸借対照表における簿価を記載しています。